

第2回 市民会議では、主に市民憲章の定義について議論しました。

春日部市における市民憲章の考え方や定義について

5月15日（水曜日）、第2回春日部市市民憲章市民会議が行われました。



第2回市民会議では、初めに、前回会議で各委員から出された意見をもとに、春日部市における市民憲章制定にあたっての考え方について話し合いました。

市民憲章の制定にあたっての考え方とは、市民憲章を作る上での前提条件となるもので、第2回市民会議では、以下の5つの項目を市民憲章制定にあたっての考え方とすることと決定しました。

制定にあたっての考え方

- ①市民共通の目標であること
- ②市民だれもが親しみやすく感じられること
- ③表現がわかりやすいこと
- ④音読したときに心地よく耳に入ってくること
- ⑤世代を超えた共通の認識として感じられ、次世代に継承できること

また、今回、一番丁寧に議論を行ったのは市民憲章の「定義や方向性」です。市民にとって受け入れやすいものであり、今後検討する市民憲章の内容を制約しないものであるよう、慎重に言葉や文の構成などについて議論しました。

今回の市民会議では、暫定的な市民憲章の定義が決まりましたので、今後も引き続き話し合いを行い、定義を決定したいと思います。

市民憲章に関するアンケートについて

今後、市民憲章を制定するにあたっては、どのような内容にしたのか、アンケートを行い、市民の皆様幅広くご意見を伺うこととしています。

今回の市民会議ではそのアンケートの設問について、回答いただいた結果が市民憲章の内容を検討する際に活かせるよう、言葉や文の構成等を細かく検討しました。

なお、市民憲章に関するアンケートは、今年度春日部市にて、実施する18歳以上を対象とした

「市民意識調査」に盛り込むこととしています。

また、市民意識調査の対象とならない小学生、中学生、高校生については、別途、同様のアンケートを実施します。

市民憲章に関する

小・中学生ワークショップについて

市民憲章の制定にあたっては、アンケートの他に、小・中学生ワークショップを実施します。

ワークショップでは、市民会議で決められたテーマについて、小・中学生から意見を集めることとしています。アンケート同様、市民憲章の内容を検討する際に活かせるテーマを選ぶのはもちろんのこと、参加者が意見を言いやすい進行方法についても意見交換を行いました。

今回の市民会議では、市民憲章に関するアンケートとワークショップについての議論が足りなかったため、この2点については再度意見交換を行うこととしました。

市民憲章の定義(暫定)

春日部市のよりよい理想の姿を掲げ、それを市民全員で実現するための道しるべ

第2回市民憲章市民会議での主なご意見

1 春日部市における市民憲章の定義や方向性について

- ①定義は幅広くし、本文で「理想のまち」の状態に重点をおくか、ある目標に重点をおくかを検討しても良いと思う。
- ②今の時代は「共感性」というものが非常に大切である。
- ③定義には広い意味で捉えられる表現を入れるのが良いと思う。
- ④「道しるべ」や「合言葉」のような言葉が良いと思う。
- ⑤制定にあたっての考え方については、一般的な位置づけで、市民憲章の前提条件の位置づけという考え方で良いと思う。
- ⑥現状も認めつつ、「ますます」や「より」という表現を入れていくのも必要だと思う。
- ⑦定義の文言はわかりやすくする必要がある。
- ⑧定義を子どもたちにどのように説明するのかを考えなければならないと思う。
- ⑨「春日部市のよりよい理想の姿を掲げ、それを市民全員で実現するための道しるべ」として広く定義を持ち、それを具体的にするために、今後市民の方へのアンケートでその「理想」や「行動」を引き出していけばよいと思う。

2 市民憲章に関するアンケートと小学生・中学生向けワークショップについて

《アンケートについて》

- ①アンケートなどを行うのであれば、子どもたちに春日部市について知っていることを聞いた上で、それをもとに夢や理想を聞きたいと思う。未来だけではなく、現在のことも聞きたいと思う。
- ②聞き方はシンプルな方が良いと思う。また、オープンクエスチョンで春日部市の魅力について聞くなど、ポジティブな設問が良いと思う。

《小学生・中学生ワークショップのテーマについて》

- ①ワークショップはわかりやすい質問をしないと、子どもたちは何を話していいかわからないと思う。私は、このワークショップで子どもたちから、言葉遣いのヒントをもらいたいと思っている。
- ②テーマには、将来春日部がこうなればいいな、という視点があっても良いのではないかと思う。
- ③子どもは、子ども扱いされると回答もそのような回答になってしまうと思う。
- ④いかに子どもたちに真剣に言葉を提供してもらえるか、ということが勝負の鍵になると思う。ファシリテートの仕方も考えないといけない。